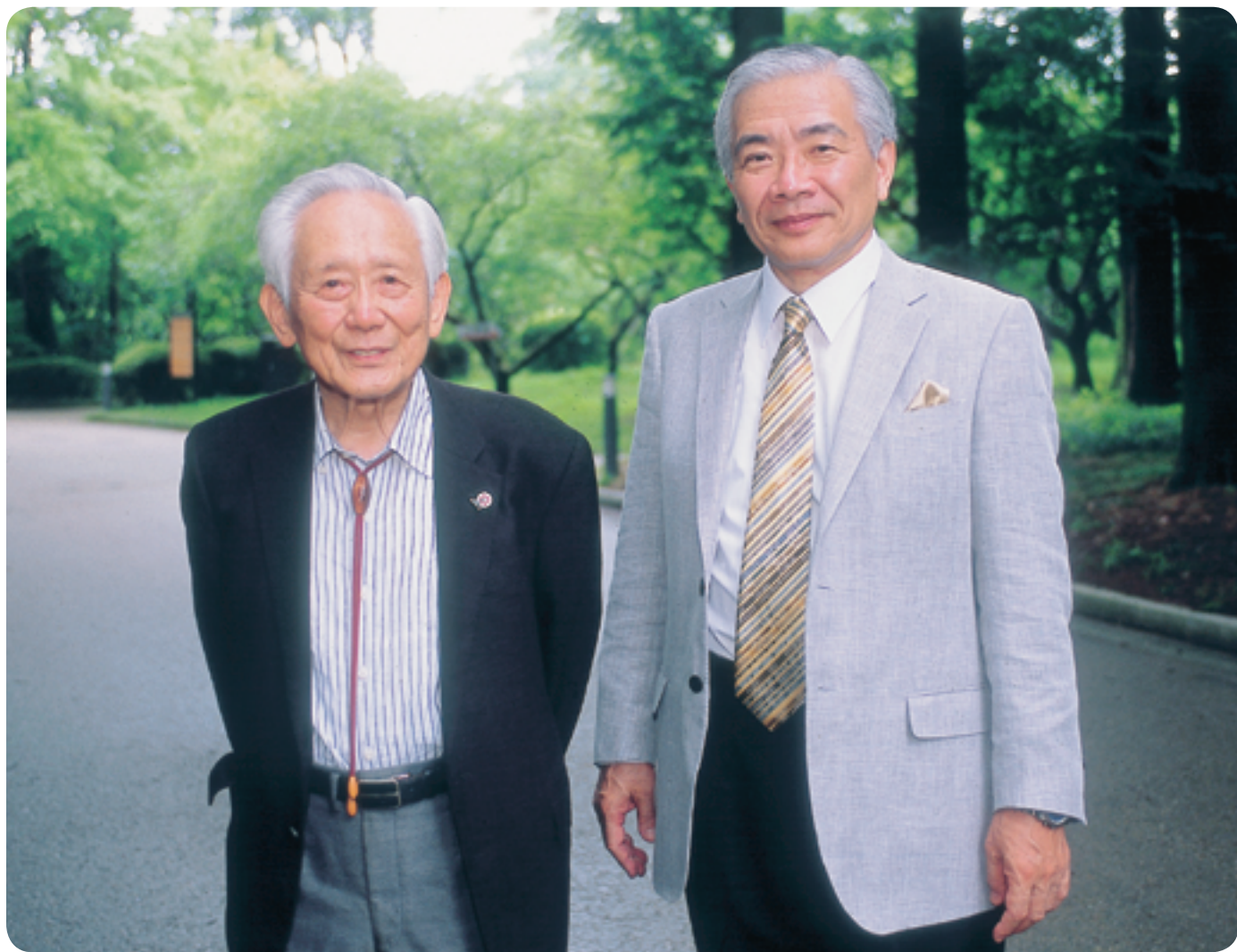


CO・OP

京都の生協

2016/August/No. 90
京都府生活協同組合連合会



森をまもることは、人のくらしをまもること
——森がわたしたちのくらしを支えている——

TalkTalk トークとーく

●京都府立林業大学 校長 ただ只 き木 よし良 や也さん
●京都府生活協同組合連合会 会長理事 かみ上 かけ掛 とし利 ひろ博

森をまもることは、人のくらしをまもること

——森がわたしたちのくらしを支えている——

京都府立林業大学 校長

只木 良也さん

京都府生活協同組合連合会 会長理事

(京都府立大学公共政策学部教授)

上掛 利博

夏になると、無垢材の床が素足にこころよく、暑さをやわらげてくれます。この木は、どんな森で育ったのだろう——。只木さんのお話をうかがいながら、ふとそんなことを考えました。

森は、材木を生み出すだけでなく、大気を守り、気候を安定させ、質のよい水を教わりました。

を提供し、土砂崩れを防ぎ、美しい景観

でわたしたちを和ませてくれる、まさに

人間社会の礎です。今回の対談では、森

について学ぶことは世界を学ぶことに等

しく、森をまもることはわたしたちのく

らしをまもることに等しい、ということ

を教わりました。

森が育てる「東洋型思考」

上掛 只木さんのご著書

『新版 森と人間の文化史』(NHKブックス、2010年)

を拝読して、「砂漠—西洋型思考」と「森林—東洋型思考」をあわせ持つことが理想だ、というご指摘に惹かれました。それぞれの思考の型にはどのような特徴があるのでしょうか。

只木 まず「砂漠—西洋型

思考」について申しますと、

水も緑もない砂漠では、どちらに進めばオアシスがあるかを判断することが非常に重要

で、その選択を間違えると命を失ってしまいます。その一方

で、砂漠は視界をさえぎるものがないので、鳥瞰的に全体

を見渡すことができます。

つまり、乾燥した砂漠にお

いては、別れ道に來たら右か

左かの択一的判断が求められて、それを間違えると、すべての生命は干からびてしまい、二度と再生しない。頼れるものは自分だけだし、失敗は許されない。鳥瞰的に大局をみて、的確な判断を下さねば生きていけない。こういう思考が砂漠で生まれて、それが西

に進み、同じく乾燥したヨーロッパ(降水量東洋の1/2

〜1/3)で花開いて西洋型の思考となりました。

一方、東洋は、湿潤な地帯

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

森をまもることは、人のくらしをまもること 2

くらしの安全

●適格消費者団体・NPO法人消費者支援機構関西(KC's) 総会・シンポジウム 7
●適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネットワーク(KCCN) 総会・講演会 7

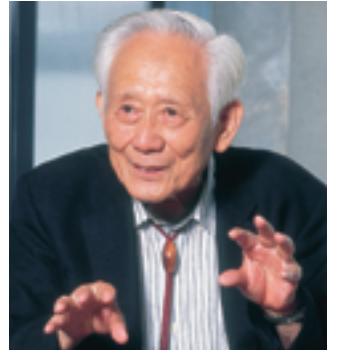
防災の取組

●2016年4月14日に発生した熊本・大分地震にたいする京都の生協の活動 7
●京都府災害ボランティアセンター総会・全体研修会開催 7
京都府生協連 第63回通常総会開催 8

2016年国際協同組合デー 第27回京都集会 10
総会だより① 11

ピースアクション京都 2016 12
総会だより② 13

京都府生協連 第19回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」 14
おもな行事のお知らせ 14



京都府立林業大学校 校長
只木良也さん



京都府生活協同組合連合会 会長理事
(京都府立大学公共政策学部教授)
上掛利博

ですから、森林の再生・繁茂は容易です。枯れて倒れた木の幹にほかの木の種が落ちて、それが芽を出す(倒木更新と言います)例も多く、そんなことから、命はいったん死んでも復活・再生するという輪廻転生^{ねてんしやう}の思想が生まれました。また、うつそうとした森林内

は、見通しがきかないので、何度も迷い、試行錯誤しながら進むしかないが、砂漠と違って、そういう繰り返しが可能で、試行錯誤可能、個々の問題に柔軟に対応できるのも、森林型思考の特徴です。

ちなみに、地理がご専門の

鈴木秀夫先生は、東洋文化の基盤である湿润域の森林の思考は、見通しのきかない森の中で迷いながら、忽然と桃源郷に至るものであり、それは「分かりません(右か左か、黒か白か分けない)」という表現が成り立つ思考だとおっしゃっています。

人と森のふれあい方はさまざま

上掛 わたしはノルウェーで家族とくらしただけがありすが、ノルウェーの人たちは週末になると、シヨッピン^{ショッピング}に行くのではなく自然の中で過ごすことを楽しみます。友人宅に招かれたときも、途中で1時間ほど森を散歩してお茶を飲むというのが恒例でした(笑)。

只木 わたしの先輩がドイツの田舎町のホテルにチェックインしたときも、初めて泊まる客であるにもかかわらず、フロント係は「明日は土曜日です。どこの森に行きますか」と聞いたそうです。それくらい、ヨーロッパでは森に出かけることが当たり前になっているんですね。

ヨーロッパの森はカラリとした落葉樹林ですから、気持ちよくて、接しやすいのでしょう。日本、とくに西日本や南日本の森は、シイやカシなどの常緑樹林ですから、暗くて、湿っていて、ヘビもいたりして、人間にはあまり好まれません。

上掛 そのような違いが、人と森の関係に影響を与えているのでしょうか。

只木 それはあると思います。ヨーロッパは、降水量が少ないので、そもそも森林が生成しにくく、いったん壊れてしまうと回復しにくい。それなのに、丘陵地をつぶして傾斜地でも栽培できる麦畑をどんどんつくり、肉食に必要

な畜産物を得るために牧場をつくるなどした過剰な開発のせいで、250年ぐらい前に土砂崩壊や洪水が頻発しました。そこでヨーロッパ諸国は森林の回復と緑化に取り組みはじめて、現在の「自然保護」の取組みへとつながっています。日本人がヨーロッパを旅して「緑がいっぱいだ」と感じるのは、ヨーロッパでは人間の生活の周りに森をつくっているからです。

日本においても、地方によって森との接し方が違って、東北の人は気楽に山に入り、ふだんから山菜採りなどによく出かけますが、関西以南の人はあまり山に入りません。北のほうの森は、明るくカラリとした落葉広葉樹林ですが、南下して来るとよく繁った照葉樹の森になるので、



「こんなうっとうしい森は、さっさとつぶして、別のものをつくったほうが文化的だ」となってしまおうのでしょうか。

においても森林ができるから、森はありふれたもので、むしろ森から抜け出したいという感覚があるのかもしれない。でも、わたしは、森が「ありふれたもの。空気のような存在降水量の多い国では、放つて

在」だということに大きな意味があると思っています。「空気のような存在」それは「ある日それが無くなったとしたら」という意味も持っているからです。

を切り開いて、新しい産業を興すこと」というような意味が書かれています。そうすると、森は邪魔者で、森を壊して別の何かをつくるのが開発だということになります。

残って、少しずつ増えていきます。日本は、ドイツ林業を学んだとき、森林の成長量以下で利用するということの意味の「持続」という言葉を輸入しました。これがまさに「サステイナブル」ということであり、林業の最も基本とする考え方です。これをきちんとまもって

林業は「持続可能性」を基礎にすえて

上掛 「森が空気のような存在」というのは、森林が地球環境の保全にも大きく貢献している大事な存在だと理解して良いでしょうか。

森林に集まっていて、森林が破壊されるとそこに貯えられていた炭素は二酸化炭素化して大気中に出てしまいます。二酸化炭素は温室効果ガスです。二酸化炭素の濃度が高まっていけば、気温の上昇

只木 そのとおりです。たとえば地球上の炭素の多くが

が原因して、急激な気候変動をもたらすおそれがあります。

上掛 日本でも豪雨が頻発しており、気候変動の影響が現実のものとなりつつあるように思います。それをくい止めるためにも森林を保全・再生しなければなりません。そのカギとなるのは何でしょうか。

上掛 只木さんは日本社会について、砂漠―西洋型思考の「鳥瞰的に大局をみる」という本質を活かさないで、択一的な解決だけを取り入れた結果、ぎすぎすした競争社会になったとも指摘なさっています。

という二者択一的思考が幅をきかすようになって、大局を見る砂漠―西洋型思考の長所は取り入れないまま、択一的な思考だけに走ってしまった。

森の維持・再生のカギは、林業者の生活安定



只木 ひとつことといえ「サステイナブル」ということだと思っています。1992年にブラジルのリオで「地球環境サミット」が開かれたとき、「サステイナブル・ディベロップメント」という言葉が流行りました。これの本来の訳語は「持続可能な人類の発展」ですが、これを日本の省庁の多くは「持続可能な開発」と訳しました。「開発」を国語辞書で引くと、「山野

只木 われわれ日本人は、明治以来、ヨーロッパを先進国だと思い、ヨーロッパのやり方を懸命にまねてきました。とくに戦後昭和40年代以降も、社会のあらゆる面で、○か×か、右か左か、開発か保全か、



その結果、余裕のない競争社会になったのではないか。そんな気がします。

上掛 それは、日本の森林政策にも影響しているでしょうか？

只木 戦後は物資不足でしたから、スギやヒノキなど必要な材木を手つとり早く採るために、人工林をつくりました。拡大造林政策といって、空き地に木を植えるだけでなく、雑木林を切り開いたり、牧場に木を植えたりして、森林面積の40%が人工林になったのが現状です。

その一方で、木材不足に対する緊急対策としての昭和38年の材木の貿易自由化で、安い外国産材が大量に入るようになり、国産の材木は使われなくなりました。いま、ようやく人工林の材木が使えるまでに成長しましたが、外国産材のほうが安いので、日本の林業は衰退しています。国土の3分の2が森林であるにもかかわらず、平成18年には材木の自給率が20%を切りました。

現在ようやく自給率は30%まで回復しましたが、われわれは大局的観点に立って、森



林資源のあるべき使い方やまもり方にきちんと向き合いたいといけない。いかに森林国

といえども、このままでは、やがて森の健全性を保てなくなり、人のくらしにも大きな影響が出るのではないかと危惧しています。

上掛 このごろは防災面でも、森林の役割が見直されるようになりました。

只木 土砂崩壊防止という役割もありますし、水源涵養^{かんよう}の機能によって洪水や渇水を防いでもいます。

余談ですが、わたしが林業試験場にいたとき(1972年)、森が貯めている水の量をダムに換算したり、森が供

給する酸素を酸素ポンベの価格に換算するなどして、森林

の経済的価値を試算すると12兆8000億円にもなりました。その後、物価スライドし、日本学術会議(2001年)

は、計算をやり直して、70兆2000億円と算出しているのですが、こうした環境保全の機能も、材木やキノコと同

じく「林産物」であり、われ

われの生活の持続可能性に大きく貢献しているのですから、それをきちんと評価し、対価をペイバックする仕組みが必要だと思っています。

上掛 京都府でも、今年から森林税が導入されました。

只木 そうですね。すでに全国各地で導入されていて、

京都府は35番目です。ただ、

森林税で得た財源を森林整備に回すという考え方はいいのですが、額としてはまったく足りない。林業に携わる人たちが森をまもってくれているのですから、まずはその人たちが林業だけで生活を営めるようにするのが課題だと思います。

排出する二酸化炭素の8%以上は京都の森が吸収しているにもかかわらず、です。

上掛 そういえば、「丸太町」という地名は…。

只木 丹波地方から産出した丸太を、保津峡を筏^{いかだ}で流し京の都に運んだ名残です。それほど京都と森林の関わりは深く、森は京都のまちづくりをサポートしてくれたのですから、「森の京都」の取組みをきっかけに、森林県としての認識を府民のみなさんがもっと持つてくださればと期待しています。

森林県としての京都

上掛 京都では、古都としての魅力だけでなく、農林漁業の豊かな蓄積にも焦点をあ

てようとすることで、府全体で「もうひとつの京都」キャンペーンがおこなわれ、昨年の「海の京都」に続いて、今年「森の京都」が取り組まれています。

只木 これはすばらしい取り組みで、「森の京都」という側面が日本中に知られるのはうれしいのですが、わたしは

林業大学校が育てる「林業のプロフェッショナル」

上掛 只木さんが校長をなさっている京都府立林業大学

校は、いつできたのですか。

只木 2012年に開校しました。高校の新卒者などを対象に、2年の修学期間で林

消費型社会から循環型社会へのシフト

業の専門家を育てる森林林業科と、森林組合の職員や新規林業就業希望者、森林ボランティアの方などを対象にした研修科があります。

上掛 森林林業科の学生さんは、京都府内出身の若者たちですか？

只木 いまのところ、府外の出身者のほうが多いですね。

やはり、「京都」という響きに釣られるのでしょうか（笑）。

定員20名のうち、毎年2〜3人は女性で、なかには高知県から4年制大学を卒業後に、林業をめざして本校に入学した人もいます。彼女はいま、地元の高知県の森林組合で働いています。

上掛 やはり、森林組合に

就職する人が多いのですか？

只木 いちばん多いのは森林組合ですが、木工所や造園関係など多岐にわたっています。ただ、公務員になる学生が少くないのは残念です。林業機械の操作に関する授業が多いので、採用試験対策の勉強がなかなかできないのかもしれないですね。その代わり、所定

上掛 協同組合としては、

奈良県の生活協同組合と農業協同組合と森林組合連合会が協同して、吉野の森と水を守る「吉野共生プロジェクト」に取り組んでいて、この活動に関わった職員や組合員の方たちの意識が大きく変化しているという取組みが注目されています。

只木 そのプロジェクトを通して、循環型社会へのシフトを考えていただけたら、とてもうれしいですね。

というのは、自然界においては「物質の循環」がとても大切で、森は、自分が生み出したものを自分で消費・分解還元していて、そういう循環

を自分のなかでおこなえば世界は永続するんだということ

を、われわれに教えているのです。

ですから、われわれは、足りないものはよそから持ってきて消費すればいいという石油依存型・消費型社会をやめて、循環型社会へと大きく舵を切り直すべき時期なのだということを、森から学ばねばならないと思います。

上掛 只木さんのご本には、「森を知らば人間の将来が見えてくる」という言葉もあります。

只木 わたしは森林生態学が専門ですから、ものを考えるときは循環論を基本にする

のですが、先ほど申し上げた

「物質の循環」は第一次産業である農林漁業と密接に関わっています。ですから、やはりこれらの産業を社会のベースにしないままではいると人間社会はまもなく滅びるのではないかと思うのです。

協同組合についてあまり認識のないわたしが申し上げるのも生意気な話ですが、この「物質の循環」をベースに置いて、いかに循環型社会にしていくかということを協同組合として考えていただけたらと思います。

上掛 生活協同組合は「学ぶ」ということを重視していますが、一人ひとりの生き方

の授業を受ければ府独自の認証制度である高性能林業機械操作士・森林公共政策士という資格も取得できて、現場では即戦力として歓迎されています。学生諸君はみんな、意欲的に学んでいますよ。



の問題と関わって、自然の循環のあり方も考えられるような「深い学習」が大切なのですね。

森林についての学びを通じて、そういう生活文化が育てば、たしかにサステイナブルな社会に変えることができるように思えます。本日は、ありがとうございました。

（写真撮影：有田知行）

プロフィール 只木 良也（ただき よしや）

1933年京都市生まれ。
1956年京都大学農学部卒業、1961年同大学院農学研究科修了。
専門は、造林学、森林生態学、森林雑学。

農林省林業試験場勤務、信州大学理学部教授、名古屋大学農学部教授、ブレイク研究所生態研究センター長を経て、現在、名古屋大学名誉教授、京都府立林業大学学校長、国民森林会議会長／農学博士。

国や地方自治体の委員を歴任、長野五輪や愛知万博の誘致にも専門家の立場で関わる。NHK教育テレビ市民大学講座などメディア出演も。

【おもな著作】

『新版 森と人間の文化史』NHKブックス NHK出版（2010）
『森の文化史』講談社学術文庫 講談社（2004）
『ことわざの生態学—森・人・環境考』丸善ブックス 丸善（1997）
『森林環境科学』朝倉書店（1996）
『森林はなぜ必要か』小峰書店（1992）



適格消費者団体・NPO法人
消費者支援機構関西(KC's)
総会・シンポジウム



適格消費者団体・NPO法人
京都消費者契約ネットワーク
(KCCN)総会・講演会

5月24日(火)、京都司法書士会館で開催されました。同ネットワーク高畠英弘理事長が開会あいさつをおこない、長野浩三理事・事務局長が議案提案。全議案が可決されました。

総会後、記念講演で「消費者契約法・特定商取引法に係る消費者委員会答申と法改正について」と題して、内閣府消費者委員会・増田朋記氏より報告がありました。京都府生協連・高取淳専務理事が副理事長をつとめています。



内閣府消費者委員会・増田朋記氏

6月25日(土)、新大阪丸ビルで開催。消費者の財産的被害の集団的な回復のための民事の裁判手続の特例に関する新しい制度(消費者裁判手続特例法)の10月施行に向けて準備をすすめる中での総会となりました。総会終了後のシンポジウムでは、この新しい制度を学び、使いこなすことをテーマにグループディスカッションを開催しました。京都府生協連・高取淳専務理事が理事をつとめています。

2016年4月14日に発生した熊本・大分地震にたいする
京都の生協の活動



(左から) 電話受付をする生協コープ自然派京都・坂本真有美理事長、京都生協・川村幸子副理事長

京都府生協連は、地震発災直後より、会員生協、日本生協連などからの情報を収集し情報共有に努めるとともに、京都府災害ボランティアセンター構成団体として活動支援をおこないました。「災害ボランティアバス」の運行では、ボランティアの電話受付に京都生協、生協コープ自然派京都、大学生協、京都府生協連の委員や役職員が参加しました。

会員生協では、緊急募金活動をはじめ、被災地の生協か

らの要請を受け、店舗・宅配事業の支援活動や共済加入者への被災見舞いを兼ねた訪問調査活動に、京都生協、全京都勤労者共済生協から職員を派遣しました。やましろ健康医療生協では、被災地の歯科医師会とともに、避難所を訪問し、歯ブラシなどの衛生用品配布や健康相談を実施するなど、各会員生協ではさまざまな支援活動が取り組まれています。



店舗支援する京都生協職員・高山和晃さん



京都府災害ボランティアセンターの被災地支援

京都府災害ボランティアセンター総会・全体研修会開催



京都府災害ボランティアセンター・宮本隆司代表

6月25日(土)、龍谷大学で開催。2015年度事業報告・監査報告と決算、2016年度事業計画と予算について審議し承認しました。

総会終了後の全体研修会では、仏教大学福祉教育開発センター・金田喜弘氏の「なぜ災害ボランティアセンターは協働を重視するのか」の講演がおこなわれました。

同センターは、2004年に発生した台風23号による災害の教訓を活かし、被災地で円滑なボランティア活動をおこない、早期復旧につくすことを目的に2005年に行政府、民間団体、社協との協働組織として発足しました。京都府生協連からは、酒向直之事務局長が副代表をつとめています。

京都府生協連 第63回通常総会開催 全議案を満場一致で可決、役員21人を選任

6月14日（火）、午後1時30分からコープ・イン・京都で、「京都府生活協同組合連合会第63回通常総会」を開催しました。

今総会の代議員数は44人で、当日の出席は本人出席29人、委任出席2人、書面出席12人でした。ご来賓をはじめ、85人の参加となりました。

上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、つづいてご来賓の京都府府民生活部・西



開会あいさつをする
上掛利博会長理事

川定彦部長（京都府・山田啓二知事代理）、京都労働者福祉協議会・橋元信一会長から、ご祝辞をいただきました。

酒向直之事務局長が、国会議員、各関係団体、各生協からいただいた84通の祝電・メッセージをご紹介します。

提案されたすべての議案が、満場一致で可決されました。

2号議案では、2001年6月総会で策定した「21世紀ビジョン」のふりかえりをおこない、京都の生協の課題と京都府生協連の役割を今日的に見直し、「新・京都の生協の課題と京都府生協連の役割」を決定しました。

員外理事をふくむ18人の理事と3人の監事が選任されました。

2016年度の役員体制は左ページののとおりです。



祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた

（敬称略・順不同・6月14日現在）

厚生労働副大臣衆議院議員公明党	竹内 譲	衆議院議員自由民主党	田中 英之	衆議院議員民進党	泉 ケンタ
衆議院議員民進党	北神 圭朗	衆議院議員日本共産党	こくた恵二	参議院議員自由民主党	二之湯 智
参議院議員民進党	福山 哲郎	参議院議員日本共産党	市田 忠義	参議院議員日本共産党	井上さとし
参議院議員日本共産党	倉林 明子				
京都市長	門川 大作	京都府議会議長	植田 喜裕	京都府社会福祉協議会会長	位高 光司
京都市社会福祉協議会会長	村井 信夫	京都商工会議所会頭	立石 義雄	京都府農業協同組合中央会会長	中川 泰宏
京都府漁業協同組合代表理事組合長	西川順之輔	京都府森林組合連合会代表理事会長	青合 幹夫	弁護士	大河原としたか

誰もが安心してくらせる地域・
社会づくりをめざして

～新・京都の生協の課題と
京都府生協連の役割～

京都の生協の5つの課題

①生協の事業と活動の総合力を発揮し、生活の文化的・経済的向上をめざします

組合員の願いを大切にし、ライフスタイルの変化にこたえ、それぞれの生協の強みを発揮して、「私の生協」と実感できる事業やサービス、活動の実現をめざします。

②消費者市民社会の主人公として、よりよい社会づくりに貢献します

食の安全や消費のあり方を意識し、自立した組合員の協同の力で消費者市民社会の実現をめざします。健康づくりや、福祉の充実とくらしの安心、地球環境保全や食糧問題、消費者問題、男女共同参画の推進、平和・核兵器廃絶、憲法を守り、民主主義の実現に努力します。

③安心してくらせる地域経済・社会づくりをめざします

生産と消費の連携、地域包括ケアの取組みやコミュニティの課題への参加など、さまざまな協同組合や地域の諸団体、行政との協同をつよめ、地域経済の再生・創造と、安心してくらせる地域社会づくりに貢献します。

④協同と連帯の力で活動を推進します

それぞれが持つ個性と強みをいかし、さまざまな分野の生協同士が協同と連帯をすすめる、さらに協同組合間協同を推進することで、組合員の願いを実現し、協同組合の価値をひろげます。

⑤組合員参加をひろげ、安定した事業と経営を確立します

組合員参加をひろげ、協同の力でさまざまなニーズにこたえ、ともに、コンプライアンスと内部統制にため、安定した事業と経営の確立

2016年度役員体制

6月14日現在（敬称略）

*印は新任

代表理事・会長理事	上 掛 利 博
	（員外）
副会長理事	畑 忠 男
	（京都生活協同組合理事長）
副会長理事	中 森 一 朗
	（大学生協同組合京都事業連合専務理事）
代表理事・専務理事	高 取 淳
	（員外）
常任理事	本 多 浩
	（京都府庁生活協同組合専務理事）
常任理事	中 島 達 弥
	（京都大学生協同組合専務理事）
理 事	大 森 俊 次 *
	（京都医療生活協同組合専務理事）
理 事	岡 田 照 雄
	（京都市民共済生活協同組合専務理事）
理 事	小 野 留 美子
	（乙訓医療生活協同組合専務理事）
理 事	上 総 紫 香子
	（生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ副理事長）
理 事	川 村 幸 子
	（京都生活協同組合副理事長）
理 事	酒 井 克 彦 *
	（立命館生活協同組合専務理事）
理 事	坂 本 真 有美
	（生活協同組合コープ自然派京都理事長）
理 事	杉 本 頼 正 *
	（京都高齢者生活協同組合くらしコープ副理事長）
理 事	堂 本 吉 次
	（やましろ健康医療生活協同組合専務理事）
理 事	鯉 江 賢 光 *
	（京都生活協同組合常務理事）
理 事	林 章 司 *
	（京都工芸繊維大学生協同組合専務理事）
理 事	山 川 修 司
	（全京都勤労者共済生活協同組合専務理事）
特定監事	今 西 静 生
	（京都府庁生活協同組合元専務理事）
監 事	石 井 聡
	（京都生活協同組合常勤監事）
監 事	鯉 迫 裕 子 *
	（龍谷大学生協同組合専務理事）
（事務局）	
事務局長	酒 向 直 之
事務局担当	川 端 浩 子
事務局担当	岡 本 朋 子

今回退任された役員のみなさん

6月14日現在（敬称略）

理事	柴 田 弘 美
	（京都生活協同組合副理事長）
理事	末 廣 恭 雄
	（京都府立医科大学府立大学生協同組合専務理事）
理事	崎 濱 誠
	（京都教育大学生協同組合専務理事）
理事	田 中 弘
	（京都医療生活協同組合前専務理事）
理事	長 誠一郎
	（京都高齢者生活協同組合くらしコープ専務理事）
監事	五 藤 実
	（同志社生活協同組合専務理事）



高取淳専務理事

当日は8人の代議員・オブザーバーから、地域生協・大学生協・医療生協・職域生協、共済生協の活動について、8件の活発な発言がありました。これらの発言をふまえ、高取淳専務理事が、「京都の生協がそれぞれの分野で組合員の要求にこたえて、旺盛に取り組まれていることが伝わる内容だった。これらの報告をふまえ、今後の京都府生協連の活動の糧にさせていただきます」と、まとめをおこないました。



生協生活クラブ
京都エル・コープ
山路 容子 代議員

「再生可能エネルギーと私たちの活動、エネルギーを作る・使う・削減する」



京都生活協同組合
渡邊 孝子 代議員

「2015年度の京都生協の特徴的な取り組み」



乙訓医療生協
鈴木 文章 代議員

「乙訓医療生協の『支え合いの会』の活動について」



全京都勤労者共済生協
松本 浩 代議員

「熊本地震の対応状況について」



生協コープ自然派京都
服部 五月 代議員

「食の安全・安心、より良い食生活と健康・食育」



京都大学生協同組合
飯田 朋子 オブザーバー

「キャンパスヘルスにおける健全な食生活習慣の形成の取り組み」



全国大学生協連
京滋・奈良ブロック
清水 菜美 オブザーバー

「消費者教育タスクチームの取り組み」



京都府庁生協
小西 重和 代議員

「供給をいかに拡大するか 正念場！」

をめざします。

① 京都府生協連の4つの役割

② 学びと交流

③ 生協間の協同・連携

④ 行政・諸団体との連携

京都府生協連の4つの役割は、生協同士がお互いに学びあい、はげましあえる交流と共同の行動を促すことです。

① 学びと交流

② 生協間の協同・連携

③ 行政・諸団体との連携

④ 行政・諸団体との連携

京都の生協の事業や活動のさまざまな姿を社会（行政、報道機関、地域諸団体）に発信し、生協の視認性や認知度を高める活動を通して、生協の価値と存在意義への理解をひろめます。

2016年国際協同組合デー 第27回京都集会

「森の恵み〜森・里・海のかかわりを考える」をテーマに開催



京都府生協連・上掛利博会長理事が開会あいさつ

7月6日（水）、キャンパスプラザ京都において開催され、JA、森林組合、JF、生協から170人が参加しました。

国際協同組合デーは、毎年7月第1土曜日を、全世界の協同組合員が心をひとつにして、協同組合運動の発展を願い、平和とよりよい生活を築くために、運動の前進を誓い合う日として、1922年に制定されたもの。

京都では毎年、京都府協同組合連絡協議会（構成／JA京都中央会・京都府森林組合連合会・JF京都・京都府生活協同組合連合会）の主催で、記念集会企画を実施しています。

ことは、京都府において「森の京都」事業を展開しており、全国育樹祭も開催されることを受け、森の恵みをテーマに講演がありました。

こくた恵二衆議院議員と二之湯智参議院議員、井上さとし参議院議員、倉林明子参議院議員から祝辞をいただきました。



京都府漁業協同組合組織部指導課・千賀隼人係長

京都府漁業協同組合組織部指導課・千賀隼人係長が司会を担当。京都府生活協同組合連合会・上掛利博会長理事が開会あいさつをしました。

つづいて「森の恵み〜森・里・海のかかわりを考える」と題して、京都府立林業大学校・只木良也校長にご講演をいただきました。

参加者からは「里山の必要性を理解することができた」「自然の循環が大切だとよく分かった」「里山の魅力・底力を改めて教えていただきました」など多くの感想が寄せられました。

各協同組合からは「協同組合の担い手が語る」と題した

活動報告がありました。

参加者からは「日頃ふれることの少ない生産者の取組みの実態を知ることができて、とても興味深い内容だった」「それぞれの協同組合の取組みやご苦労がよく理解できた」「次世代を担う若手の話・講演が聴けて大変勉強になった」などの意見がありました。

さいごに、京都府森林組合連合会・青合幹夫代表理事会会長が「4つの協同組合の連携を組合員にどう結びつけていくかが課題。さらなる協同組合の発展に尽力していきましよう」と閉会のあいさつをのべました。



京都府森林組合連合会・青合幹夫代表理事会長

総会だより①

NPO法人京都地球温暖化防止府民会議総会

6月25日（土）、同志社大学において開催されました。

京都府環境部地球温暖化対策課・松田克也課長が開会のあいさつをおこない、平成27年度事業報告、決算、平成28年度事業計画、予算等、すべての議案が承認されました。28年度の方針では、引き続き「低炭素型のステキな京都」の実現をビジョンに掲げ、単にCO₂排出量を減らすだけでなく、そのことがより良い快適な生活につながることを目指します。総会前の関連セミナーは、「低炭素な地域をつくる＝元気な地域をつくる」と題して、北海道教育大学・平岡俊一氏より、国内外の先進的な事例についての報告がありました。

京都市ごみ減量推進会議総会

6月24日（金）、京都平安ホテルで開催されました。

京都市ごみ減量推進会議は、ごみ減量に関する意識の高揚を図るとともに、地域でのごみ減量に関する自主的な取組みを促進することを目的に、市民・事業者・行政の三者が自発性とパートナーシップを基本として、1996年に発足しました。

総会では、議案第1号として「普及啓発実行委員会」「ごみ減量事業化実行委員会」「地域活動実行委員会」「2R（発生抑制、再利用）型エコタウン構築事業実行委員会」の各委員長より平成27年度活動の報告がありました。採決では第5号議案まですべての議案が承認されました。

484会員のうち、総会には246会員が出席しました。京都府生協連・高取淳専務理事が理事に選出されました。

活動報告では、平成27年度、新たに「地域ごみ減量推進会議」が24団体設立されたとの報告や、平成28年度は広報活動を強化するとの報告がありました。

みやこ 京のアジェンダ21フォーラム総会

6月22日（水）、京エコロジーセンターで開催されました。

総会では、電力小売り自由化を契機とした再生可能エネルギー拡大に向けた方策の検討や、情報提供の取組みを引き続きすすめるとの報告がありました。採決では第4号議案まですべての議案が承認されました。

420会員のうち、総会には236会員（書面出席含む）が出席しました。



《報告講演》
「森の恵み〜森・里・海のかかわりを考える」
—京都府立林業大学校・
只木良也校長—



協同組合の担い手が語る JA・JF・森林組合・生協から活動報告がありました
『伝統野菜が都市農業を守る』 Made in 京都 から Made by 佐伯へ
JA京都市青壮年部朱雀野支部 佐伯 農生



「持続的なズワイガニ漁業をめざして 水ガニの保護」
一般社団法人京都府機船底曳網漁業連合会 熊谷 謙



京丹波森林組合での取組
京丹波森林組合 藤本 和磨



京都生協のお買い物支援の取組み
京都生協 林田 久宗

ピースアクション京都 2016

6月21日（火）、京都府生協連のよびかけで
生協組合員・役職員約100人がピースパレードに参加



京都府生協連・上掛利博会長理事、大学生協・廣庭晋さん、京都生協・川村幸子副理事長、
京都高齢者生協くらしコープ・水口武夫常務理事（6月21日当時）が先頭をきって行進

6月21日（火）、「2016年
ピースパレード京都」が取り組
まれました。「平和と核廃絶の
願いをもちより、広島・長崎で
の世界大会につなげよう」との
趣旨ではじまった京都の生協の
ピースパレードは、今年で33回
目をむかえました。

京都府生協連のよびかけで、

京都生協・大学生協・京都高

齢者生協くらしコープなどのほ

か、鳥取県の生協からの参加

もあり、組合員・役職員100

人が「世界中に伝えたいま

ある地球 みんな友だち



鳥取県の生協のみなさん



京都生協の組合員・役職員のみなさん

みんな好き！」をテーマに、街
ゆく人びとに力づくよく訴えま
した。

多くの観光客の中を祇園石
段下から四条通り、河原町通
りをすすんで、京都市役所へ。
歌をうたいながらの行進とな
りました。

それぞれが趣向をこらした
カラフルなコスチュームで参加
し、「We love peace.
Love & Peace」と大き
な声でアピール。沿道の海外の
観光客からピースサインを返し
てもらい、楽しみながら平和を
アピールする、華やかでにぎや
かな催しとなりました。

総会だより②

きょう アース(あす)

京と地球の共生府民会議 総会

6月6日(月)、京都府庁旧本館会議室において開催されました。

京都府環境部・山口寛土部長が開会のあいさつ。平成27年度事業実績および収支決算について、平成28年度事業計画(案)及び収支予算(案)、運営委員の委嘱(案)についての、すべての議案が承認されました。構成団体による活動状況・取組事例についての報告がされました。当会議は、京都府生協連を含む49の団体で構成されています。

京都食育ネットワーク総会

6月19日(日)、キャンパスプラザ京都で開催されました。

代表の同志社大学政策学部・総合政策科学研究科・今里滋教授が開会のあいさつをおこないました。

提案された全議案が承認されました。

同ネットワークは、食育にかんする普及・啓発、情報の収集・提供、食育支援活動の登録・提供などの取組をおこなっており、保健衛生、農林水産、教育・大学、商工、消費者団体、報道関係などの幅広い分野から、88の団体が会員登録しています。

京都府生協連からは、酒向直之事務局長が同ネットワーク幹事をつとめています。

京都労働者福祉協議会定期総会

5月26日(木)、ラポール京都で開催されました。

京都労働者福祉協議会(京都労福協)は、行政や労働団体などの関係団体と連携し、勤労者福祉の向上などさまざまな活動を展開しており、京都府生協連では理事を派出しています。

活動報告では若者の奨学金問題に焦点をあて、署名活動を通じた世論喚起の取組についての報告がありました。採決では第6号議案まですべての議案が承認されました。



(左から) 京都生協・中田和子さん、田中與念子ピースパレード企画運営スタッフ

パレードの出発を前に、円山公園内で出発集会が開かれました。京都生協・中田和子さんが司会を担当、京都生協・田中與念子ピースパレード企画運営スタッフがあいさつをおこないました。鳥取県の生協からの参加者をはじめ、各参加団体によるピースアピールがありました。



「世界中に伝えたい まあるい地球 みんな友だち みんな好き！」



京都府生協連・上掛利博会長理事

ゴールとなった京都市役所前では、まとめ集会がおこなわれ、京都府生協連・上掛利博会長理事が生協を代表して、「50年前にビートルズが来日した時のインタビューで、ジョン・レノンは『平和』が欲しい、ポール・マッカートニーは『原爆禁止』を願うと語った。平和の活動を広めよう」とあいさつをおこないました。

〈2016年原水爆禁止国民平和行進実行委員会へのメッセージ〉 ※抜粋
昨年開かれた核不拡散条約(NPT)再検討会議は、わずかな数の核保有国の抵抗で最終文書を採択することができなまま閉幕しましたが、核兵器禁止・廃絶を求める声は国連加盟国の8割となり、多数の国が法的な枠組みづくり、核兵器禁止条約に触れるなど、核兵器廃絶の流れの新たな発展が示された重要な会議となりました。
被爆70年を経て、いま諸国民の世論と運動が、草の根でも国際政治でも新たな転機をつくり出しています。オバマ米大統領が、アメリカ大統領として初めて被爆地・広島市の平和記念公園を訪ねました。原爆を投下した核超大国の現職大統領が、爆心地の公園に足を運び、被爆者らを前に、「核兵器なき世界を追及」する演説をしたことは歴史的な一歩です。
国内では、多くの国民が反対している集団的自衛権の行使を可能とする安全保障関連法が施行されました。憲法を改定する動きも強まっています。今年は、日本国憲法が公布されて70年になります。日本国憲法の理念と基本原則を学び、大切にすることが今ほど求められていることはありません。
生活協同組合は、戦後、平和とより

よい生活を求めて活動してきました。これからも、くらしを大切にしたい社会をよりよくしていくためには、まず平和が大切であるとする考えを基本に活動を進めてまいりたいと思います。
今年は、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」がスタートします。「一人ひとりの署名が、核兵器廃絶を求める世論となり、必ず国際政治を動かす」と確信しています。私たちが子どもたちの平和な未来に核兵器は必要ありません。被爆者の「核戦争起こすな、核兵器をなくせ」「ふたたび被爆者をつくらない」という切実な願いにしっかりと向き合い、核兵器廃絶の転機となる年にしていきましょう。平和行進の取組みが、そのための力強い一歩となることをあらためて確認しようではありませんか。
本日も、みなさまとこいっしょに、楽しく、そして声高らかに、平和と安全・安心のくらしの大切さをより多くの京都府民によりかけていきたいと思っています。

2016年6月21日
京都府生活協同組合連合会
会長理事 上掛 利博

京都府生協連 第19回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ

TPP (環太平洋パートナーシップ協定) これからの共済・保険、医療を考える



全労済中日本事業本部総合企画部
経営企画課・佐々木祐介課長

4月12日(火)、コープ御所南ビル4階会議室で開催しました。役員あわせて38人が参加しました。

会員生協の多くが共済や医療を事業展開していることから、TPPが発効された場合に、共済・保険、医療分野にどのような影響があるのか、何が想定され、課題は何かについて学ぶことを目的に開催されました。

京都府生協連・上掛利博会長理事が開会のあいさつをおこない、中島達弥常任理事がコーディネーターをつとめました。

全労済中日本事業本部総合企画部経営企画課・佐々木祐介課長より、「共済生協に対するTPP等の影響」をテーマに、協同組合と共済、共済

を取り巻く情勢、TPP交渉と共済について、報告がありました。まとめでは、今後も国内外から共済生協に対する規制強化や監督強化を求めることが予想され、その対策として、組合員を増やすこと、生協間の連携を強めること、生協の社会的必要性について、分かりやすく合理的に主張することが大切であるとの指摘がありました。



京都橘大学・現代ビジネス
学部経営学科・高山一夫教授

つぎに、京都橘大学・現代ビジネス学部経営学科・高山一夫教授(医療経済、非営利組織論。京都生協全区域理事。くらしと協同の研究研究委員)から、「医療分野に対するTPPの影響」をテーマに、医療保険制度・介護保険制度の概要と、医療・介護をめぐる改革動向、TPPと医療制度への影響についての報告が

ありました。医療・介護制度の改革動向については、患者・利用者負担が引き上げられ、介護分野で問題が深刻化するため、生協としても、事業として取り組むべきである。TPP協定と生協の関係では、生命や人権の擁護、社会保障運動の推進、国際的な連帯と協同といった観点から、注意を払う必要があるとの指摘がありました。



京都府生協連・
中島達弥常任理事

参加者からは「食だけではない方向からTPPを学習できて大変刺激を受けた」「TPPがすべての生協にかかわりがあると、問題意識を共有できる機会となった」「もう少し具体的な中身が鮮明になってきた後に改めて学習しても良いかも知れない」などの感想が出されました。

おもな行事のお知らせ

2016年度京都府総合防災訓練

日時：9月4日(日) 午前

会場：主会場・南丹市園部公園及び南丹市園部公園 陸上競技場他

※京都府生協連はJAグループとともに緊急物資搬送訓練に参加。

京都府協同組合

「第16回職員体験・交流学校」

主催：京都府協同組合連絡協議会

(JA京都中央会・森連・JF京都・生協連)

日時：9月7日(水) 13:30～8日(木) 13:00(予定)

会場：京都府立林業大学校、京都丹州木材市場など

テーマ：京都の森林・林業NOW

京都環境フェスティバル2016

主催：京都府・京と地球の共生府

民会議ほか

日時：12月10日(土)～11日(日)

会場：京都府総合見本市会館(パルスプラザ)

※京都府生協連は会員生協の環境商品、取組み紹介で出展予定。

CO-OP

発行：京都府生活協同組合連合会 TEL 075 (251) 1551
URL: <http://www.kyotofu-seikyoren.com> E-mail: kyotofu-seikyoren@ma2.seikyone.jp

〒604-0057 京都市中京区烏丸通二条上る時給屋町2008番地 コープ御所南ビル4階